



法人 ながおか

題字：山本享靖氏
(第66代長岡税務署長)

2023 新年号
vol.150

 公益社団法人 長岡法人会



年頭ご挨拶

会長 七里 俊雄

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にはよき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます

また会員各位と関係団体の皆様には法人会の活動に多大のご理解とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

コロナ禍になって、はや3年。この3年間、皆様はどの様にお過ごしいただいたのでしょうか。

「もうコロナ禍の前と同じ生活をしていますよ」あるいは「まだまだコロナに注意しないと怖いですね」と受け止め方はいろいろだと思います。

コロナ禍になった当初、ヒマなので断捨離に挑戦しました。その時リストアップして友人に送ったメールの下書きができてきました。

「捨てられるものリスト」

2020年5月3日

- 1 50年前のGS（グループサウンズ）のカセットテープ
- 2 古い競馬新聞
- 3 数十年前のダービーのはずれ馬券
- 4 5年前の解熱剤と風邪薬
- 5 有名レストランの昔の湿ったマッチ
- 6 どこかのスナックの名入れ100円ライター 等々

ついでにこんなものも捨ててしまおう

理性・常識・羞恥心

次に「捨てきれないものリスト」

- 1 1994年日本ダービー馬ナリタブライアンの100円の単勝馬券
- 2 小説麻雀放浪記（阿佐田哲也）
- 3 イーグルスのレコード
- 4 浅野温子のテレホンカード
- 5 馴染みだったスナックの名入れ100円ライター 等々

そして捨ててはいけないもの

義理・人情・友情（友達）&納税義務

当時外出もままならずヒマだったのがうかがえます（笑）

長岡法人会としては、去年は、通常総会・理事会・決算法人説明会、「税と文化講演会」そして懇親会も開催出来ました。

又、長岡税務署にご協力をいただいたの税の研修会、地域貢献活動では租税教室そして各地区での花いっぱい運動・花火協賛等で活動していただきました。

法人会としては今年も会員企業の役に立つ「税制改正に関する提言」を国・地方自治体に行うとともに税務署・税理士の皆様のご支援をいただきながら税の普及・啓蒙活動を積極的に取り組んでいきます。

コロナ終息と夜の街の景気の回復を願いつつ、今年が皆様にとって良い年になりますよう祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。

税を考える週間

長岡税務署長納税表彰
(法人会の功績)

公益社団法人長岡法人会
常任理事 小室 功 殿



税と文化講演会

11月22日(火)ホテルニューオータニ長岡で、長岡法人会第35回理事会の後、「税と文化講演会」を開催いたしました(長岡税務署、関東信越税理士会長岡支部、長岡間税会 共催)。参加者200余名を前に、第一部は長岡税務署忠平署長、第二部は作家 竹田恒泰氏から講演をいただきました。

第一部 長岡税務署 忠平 典幸 署長 講演 演題 『くらしと税』

忠平署長は、佐渡市(旧両津市)の出身で、佐渡の海岸線一周は260km以上あり、車の観光は最低一泊二日がおすすめなどの情報や今年7月に着任した長岡署は、最初の赴任部署でもあるとのこと。そうした当市との縁や当時のエピソードをユーモアに溢れた語り口で始められ、聴講者の共感を呼びました。

また、講演では秋場所開催中の相撲に関連したクイズや蘊蓄、次いで力士の優勝賞金、懸賞金は税務上、一時所得、事業所得にあたることや、「タニマチ」から受け取るご祝儀が個人、法人の別では贈与税、一時所得にあたる等、聴講者の興味を一気に



引き付け、気づいたら税金の話で寄り切られた一時間となりました。

締め括りでは、スマホを利用した確定申告やダイレクト納付、インボイス制度等について丁寧な説明があり、聴講者からは好感を持って受け止められていました。



第一部 竹田 恒泰 氏 講演 演題 『何故、日本の皇室だけが続くのか?』

① 混乱期の今、だからこそ、民族としての強みの再確認が必要

米中新冷戦が始まりそうな矢先に、コロナ・パンデミック・ウクライナ戦争、そこへ強烈な円安。明治維新や先の大戦に並ぶ変動期にあります。こういう時期こそ国家の存亡は民族として持っている強みが問われます。この荒波を乗り越える為には歴史から学ぶしかありません。経営者も悩んだ時は創業の理念に立ち返る方が多いかと。

では、歴史を遡りましょう。てか、古すぎて分からないんです(笑)。大和王権の成立は3世紀前半、そして日本を統一したのは4世紀末。しかし、5世紀以前は文字が無いので、建国から統一までの流れが口伝による継承しかありません。重要な人物名くらいは残っていますが、その方々の具体的な功績を辿るのは無理です。しかし、事実として分かっているのは、大和王権が1800年以上続いているということ。国連加盟193か国の中で、二番目に古いデンマークの約1000年を圧倒的に引き離しての一位です。

② 民族としての強み、それは、建国の理念である

日本人は日本国の建国の理念を分かっているでしょうか?アメリカの理念はフリーダム!つまり自由を手に入れること。フランスは平等、中国は共産党一党独裁です(笑)。では日本の建国の理念は?実は建国の理念が教科書に書かれていないのは日本だけです。建国の理念、それは初代神武天皇の詔(みことのり)となります。文字が出来て後に、古事記によって、初代天皇を神武と呼ぶことを後世に決めた訳です。

では、口伝された神武の建国の理念は?1~2世紀の日本はとても荒れていた様です。何故分かるかと言うと、吉野ヶ里など遺跡では戦没者墓が見つかります。そこで、神武は言いました。戦争を止めろ!と。日本人同士仲良く協力し合おう!普通、戦争で勝った者が初代になりますが、日本は戦争を止めよう!と言った者がなった。これが建国の理念です。3世紀までは、前方後円墳は大和朝廷の統治範囲に限定されていましたが、4世紀末には九州から東北まで広がります。つまり3~4世紀に戦争の痕跡がない。100か国以上あった国が戦争なしで統一された訳です。では、どうやって統合したのか?天皇の子供たちが地方豪族に嫁ぎ家族となり親戚となった。古事記では

第30代くらいまで169豪族が親類になったとあります。



③ 統一王である大和朝廷が存続し続けた2つのルールとは

世界の歴史は宗教戦争の歴史です。争うから勝者と敗者が生まれる。では、争わない為にどうしたか?宗教の自由を認めたのです。例えば、出雲の国・大国主命は大和に国を譲るが、宗教は残すことを約束させた。だからこそ、今もって出雲大社は残っている。伊勢も熱田も住吉も大和は受け入れたのです。地方豪族たちは皆、大和朝廷と親戚になっていたのです。

もう一つ重要なルールがあります。それは仮に戦争になっても民間人を巻き込まない。後の応仁の乱では大いに反省したかと。町中で戦うと大変な迷惑になる。ならば、原っぱでやろう!のルールです。1日でもっとも死んだ内戦は長篠の戦1.7万、次が関ヶ原1.2万と言われていますが、どちらも民間人死者はゼロ。その精神は近代にまで引き継がられ鳥羽伏見・五稜郭の戦いも共に民間人死者はゼロ、江戸城も無血開城となった。

④ 国民から愛されないリーダーは存続できない

即位した仁徳天皇は困窮する民衆の為に3年間全ての税金を停止しました。まだまだだ!と、もう3年停止、更にもう3年と言ったところ、大衆が勝手に仁徳天皇の御殿を作ったそうです。その後も仁徳天皇の振舞いは歴代天皇から模範と奉られたそうです。

先の大戦後の民主化でイタリア王家は9割の国民から打倒されたが、日本の皇室は国民の9割以上が支持し存続した。歴代天皇が素晴らしかったからこそ、国民が受け入れて来た結果、皇室は1800年続いているかと。足元の国難を日本が乗り越えられるか?否か? 歴史的な変動期にある今、日本政府が国民の為に国民から愛される政治を行ってくれるかどうかにか尽きます。